

Safety Data Sheet (SDS)

作成 2016年12月1日
第1回改訂 2022年08月31日

1. 化学品及び会社情報

製品の名称：MK1KS

供給者の情報：

供給者の会社名称：三菱マテリアル株式会社
住所：〒100-8117 東京都千代田区丸の内 3-2-3
担当部門：加工事業カンパニー 品質保証本部
電話番号：03-5252-5381
FAX 番号：03-5252-5436
緊急連絡電話番号：品質保証本部 岐阜分室
電話番号：0584-27-1033(分室)、0584-27-4330 (代表)
(午前8時から午後4時45分、日・祝・会社休日を除く)

推奨用途

潤滑剤および潤滑剤添加物

使用上の制限

情報なし

2. 危険有害性の要約

化学品の GHS 分類

本製品は、化学品の分類及び表示に関する世界調和システム (GHS) に基づく危険有害性ではない。

GHS 分類に関係しない又は GHS で扱われない他の危険有害性

データなし

3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区分

混合物

化学名又は一般名	CASRN	化審法番号	労働安全衛生法 施行令番号	濃度又は濃度範囲
ホワイトミネラルオイル (石油)	8042-47-5	2-10 9-1692 9-1694 9-1700 9-1702 9-1703	(2)-10 (9)-1692 (9)-1694 (9)-1700 (9)-1702 (9)-1703	>=40- <50%
グラファイト	7782-42-5	未収載/ Not Listed	未収載/ Not Listed	>=20- <30%
水酸化カルシウム	1305-62-0	1-181	(1)-181	>=10- <20%
酸化ジルコニウム	1314-23-4	1-563	(1)-563	>=10- <20%
二酸化ケイ素	7631-86-9	1-548	(1)-548	>=1- <10%

4. 応急措置

一般的アドバイス

- 応急措置担当者は自分の安全確保に注意を払い、推奨されている防護服(耐薬品手袋、飛沫防護)を使用する。暴露する可能性がある場合は、第8項の保護具の情報を参照。

吸入した場合

- 新鮮な空気のある場所に移動させる。呼吸停止の時は人工呼吸を施す。マウスツーマウス式人工呼吸を行う時は、レスキュー用保護具(ポケットマスクなど)を使用する。呼吸困難の時は、有資格者が酸素吸入を行う。医師を呼ぶか、医療機関に搬送する。

皮膚に付着した場合

- 石鹼と大量の水で洗って、物質を直ちに皮膚から取り除く。洗っている間に汚染された衣類や靴は脱がせる。刺激が収まらない時は医師の診察を受ける。衣類は再使用前に洗濯する。汚染を取り除くことができない靴やベルト、時計バンド等の革製品は廃棄する。

眼に入った場合

- 直ちに水で眼を洗い流す。コンタクトレンズを装着している場合は、洗い始めて5分経ってからはずし、さらに15分以上洗眼を続ける。迅速に医師の診察を受ける。眼科医が望ましい。作業場内に適切な緊急用洗眼装置を設置すること。

飲み込んだ場合

- 誤飲した時は、医師の診察を受ける。医師の指示がない限り、嘔吐させない。

急性症状及び遅発性症状の最も重要な徴候症状

- 上記の応急措置の記述、下記の緊急治療及び必要とされる特別処置の指示に記載されている情報に加えて、重要な症状や影響は項目11の有害性情報に記載されている。

医師に対する特別な注意事項

- 患者に十分な換気及び酸素吸入を維持すること。特別な解毒剤はない。暴露に対する治療は、患者の症状に応じて臨床的処置を行う。

5. 火災時の措置

適切な消火剤

- 水噴霧 耐アルコール泡消火剤 二酸化炭素粉末消火剤

使ってはならない消火剤

- 知見なし

火災時の特有の危険有害性

有害燃焼副産物

- 炭素酸化物 金属酸化物

異常な火災及び爆発の危険

- 燃焼生成物への暴露は健康に害を及ぼす場合がある。

消防士へのアドバイス

特有の消化方法

- 現場の状況と周辺環境に応じて適切な消化手段を用いる。未開封の容器を冷却するために水を噴霧する。安全であれば未損傷コンテナを火災領域から離す。区域から退避させること。

消火活動を行う者の特別な保護具

- 消火活動時には必要に応じて、自給式呼吸装置を装着する。保護具を使用する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置

- 安全な取り扱いの助言や、個人保護具の推奨事項に従う。

環境に対する注意事項

- 環境への放出は必ず避けなければならない。安全を確認してから、もれやこぼれを止める。汚染された洗浄水を保管し、処分する。流出が著しく回収できない場合は、地方自治体に通報する。

封じ込め及び浄化の方法及び機材

- 拭き取り、こすってきれいにした後、容器に回収し処理する。本製品を放出、廃棄する際には、各地方自治体及び国の規則に従って処理すること。その放出に使用された物質についても同様である。どの規則が適用されるかを確認する必要がある。多量にこぼれた場合、防液堤を築く等の適切な封じ込め手段を講じて、広がらないようにすること。防液堤に使用した資材をポンプで吸い上げることができる場合には、回収した物質を適切な容器内に保管する。本 SDS の項目 13 および 15 において、地方自治体および国の法規制の記載あり。

7. 取り扱い及び保管上の注意

取り扱い

技術的対策

- 適切な換気装置の下でのみ使用する。暴露防止及び保護措置の候の設備対策を参照。

安全取扱注意事項

- 皮膚や衣服に付けない。目との接触を避ける。容器を密閉しておくこと。漏れや廃棄物を防止し、環境への放出を最小限にするよう注意する。十分な衛生的作業を行い安全規定に従って取り扱う。

接触回避

- 情報なし

衛生対策

- 衛生状態を良好に保つ。作業場所での飲食や、食物の保管をしないこと。喫煙や食事の前には手を洗う。作業場の近くに眼の洗浄装置と安全シャワーが設置されていることを確認する。

保管

安全な保管条件

- 適切なラベルの付いた容器に入れておく。栓をしっかりと閉める。各国の規定に従って保管する。
- 次の製品種類といっしょに保管しない：強酸化剤

安全な容器包装材料

- 容器に不適な素材：知見なし。

8. 暴露防止及び保護措置

許容濃度

暴露限界値が存在する場合は以下に記載されている。暴露限界が表示されていない場合は適用しない。

化学名又は一般名	国際規制	リストのタイプ	価値
ホワイトミネラルオイル (石油)	ACGIH	TWA 吸入濃度	5mg/m ³
	詳細情報：URT irr：上気道の炎症；A4：ヒト発がん性物質としては未分類		
	日本産業衛生学会 (許容濃度)	OEL-M ミスト	3mg/m ³
	詳細情報：φ：発ガン以外の健康影響を指標として許容濃度が示されている物質 III.発がん性分類の前文参照；1：発がん物質、「第1群」にヒトに対して発がん性があると判断できる物質である。この群に分類される物質は、疫学研究からの十分な証拠がある。		
グラファイト	ACGIH	TWA 吸入濃度	2mg/m ³
	詳細情報：pneumoconiosis：塵肺		
	日本産業衛生学会 (許容濃度)	OEL-M 吸入性粉じん	0.5mg/m ³
	詳細情報：第1種粉塵		
	日本産業衛生学会 (許容濃度)	OEL-M 総粉じん	2mg/m ³
詳細情報：第1種粉塵			
水酸化カルシウム	ACGIH	TWA	5mg/m ³
酸化ジルコニウム	ACGIH	TWA	5mg/m ³ ,ジルコニウム
	詳細情報：resp irr：呼吸器の刺激；A4：ヒト発がん性物質としては未分類		
	ACGIH	STEL	10mg/m ³ ,ジルコニウム
	詳細情報：resp irr：呼吸器の刺激；A4：ヒト発がん性物質としては未分類		

• 暴露対策

設備対策：局所排気装置や他の排気装置を使用して、気中濃度が許容濃度や管理濃度より低くなるように管理する。許容濃度や管理濃度が設定されていない場合、通常の作業は全体換気を行うことで十分である。一部の作業には局所排気装置が必要になることがある。

• 保護具

呼吸用保護具：許容濃度や管理濃度を超える可能性がある場合、呼吸器保護具を着用すること。許容濃度や管理濃度が設定されていない場合、呼吸器刺激や不快感等がある場合、またはリスク評価において必要であると示された時、呼吸器保護具を着用する。

手の保護具：この物質に対し耐薬品性のある手袋を用いること。注意：特定の用途と作業場での使用時間に適合した手袋を選択するときは、以下に示す要件をはじめとして、作業上の要件をすべて考慮に入れる必要がある：取り扱う可能性がある他の化学物質、物理的要件（切傷・刺し傷の予防、機敏さ、熱の保護）、手袋の供給業者からの説明書・仕様書。

眼、顔面の保護具：ケミカルゴーグルを使用する。

皮膚及び身体の保護具：皮膚に接触する可能性がある場合、この物質に耐薬品性のある保護衣を用いること。

特別な注意事項：情報なし。

9. 物理的及び化学的性質

物理状態：	ペースト
色：	灰色
臭い：	無臭
臭いの閾値：	データなし
pH：	非該当
融点：	データなし
凝固点：	データなし
沸点又は初留点及び沸騰範囲：	データなし
引火点：	セタ密閉式引火点試験>170°C
蒸発速度(ブチルアセテート=1)：	非該当
可燃性：	引火の危険性として分類されていない
爆発範囲の下限：	データなし
爆発範囲の上限：	データなし
蒸気圧：	非該当
相対ガス密度：	データなし
密度及び/又は相対密度：	1.21
水への溶解度：	データなし
粒子特性_アセスメント	情報なし
粒子特性_粒子サイズ	データなし
n-オクタノール/水分配係数(log 値)	データなし
自然発火温度：	データなし
分解温度：	データなし
粘度：	非該当
動粘性率	非該当
爆発特性：	非爆発性
酸化特性：	本製品は酸化性物質として分類されない
分子量：	データなし

注記：上記の物理データは、代表値であり、仕様として解釈されるべきものではない。

10. 安定性及び反応性

反応性：反応性危険としては分類されない。

化学的安定性：通常の状態では安定。

危険有害反応可能性：強い酸化剤と反応することがある。150°C(300° F)を超える温度まで空気中で加熱されると、微量のホルムアルデヒドが放出されることがある。適切な換気を要する。

避けるべき条件：知見なし。

混触危険物質：酸化剤。

危険有害な分解生成物：1-ブテン

11. 有害性情報

急性毒性(経口、経皮、吸入)：	製品としての試験データは得られていない。成分のデータを参照。
皮膚腐食性／刺激性：	製品としての試験データは得られていない。成分のデータを参照。
眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性：	製品としての試験データは得られていない。成分のデータを参照。
呼吸器感作性又は皮膚感作性：	製品としての試験データは得られていない。成分のデータを参照。
特定標的臓器毒性（単回暴露）：	製品としての試験データは得られていない。成分のデータを参照。
特定標的臓器毒性（反復ばく露）：	製品としての試験データは得られていない。成分のデータを参照。
発がん性：	製品としての試験データは得られていない。成分のデータを参照。
催奇形性：	製品としての試験データは得られていない。成分のデータを参照。
生殖毒性：	製品としての試験データは得られていない。成分のデータを参照。
生殖細胞変異原性：	製品としての試験データは得られていない。成分のデータを参照。
誤えん有害性：	製品としての試験データは得られていない。成分のデータを参照。

毒性分析に影響を与えるコンポーネント：

ホワイトミネラルオイル(石油)

急性毒性(経口)：	LD50, ラット, >5,000mg/kg OECD 試験ガイドライン 401
急性毒性(経皮)：	LD50, ウサギ, >2,000mg/kg OECD 試験ガイドライン 402 この濃度では死に至らない。
急性毒性(吸入)：	LC50, ラット, オスおよびメス, 4h, 粉じん/ミスト, >5mg/l OECD 試験ガイドライン 403
皮膚腐食性／刺激性：	長期間の接触でも、実質的には皮膚刺激作用はない。繰り返し接触により、局所発赤を伴い皮膚を刺激することがある。
眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性：	軽度の一過性眼刺激作用を起こすことがある。角膜損傷は起こらないであろう。
呼吸器感作性又は皮膚感作性：	モルモットでのテストでは皮膚アレルギー反応はなかった。
呼吸器感作性：	関連のあるデータは得られていない。
特定標的臓器毒性（単回暴露）：	入手可能データは特定標的臓器毒性(単回暴露)を決定するには不十分である。
特定標的臓器毒性（反復暴露）：	入手可能なデータによると、繰り返し暴露で、追加的な顕著な有害影響は予期されない。
発がん性：	動物試験では発がん性はなかった。
催奇形性：	動物試験では催奇形性はなかった。
生殖毒性：	動物試験では生殖を阻害しなかった。
生殖細胞変異原性：	インビトロでの遺伝毒性試験は陰性であった。
誤えん有害性：	物性上、誤えん有害性は低い。

グラファイト

急性毒性(経口)：	LD50, ラット, >2,000mg/kg OECD 試験ガイドライン 401 この濃度では死に至らない。
急性毒性(経皮)：	経皮 LD50 は決定されていない。
急性毒性(吸入)：	LC50, ラット, 4h, 粉じん/ミスト, >2mg/l OECD 試験ガイドライン 403 この濃度では死に至らない。
皮膚腐食性/刺激性：	実質的に皮膚刺激性が認められない。
眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性：	軽度の一過性眼刺激作用を起こすことがある。軽度の一過性角膜損傷を起こすことがある。
呼吸器感作性又は皮膚感作性：	マウスに接触アレルギーの可能性は認められなかった。
呼吸器感作性：	関連のあるデータは得られていない。
特定標的臓器毒性 (単回暴露)：	使用可能なデータの評価によれば、この物質は特定標的臓器毒性(単回暴露)を示さない。
特定標的臓器毒性 (反復暴露)：	過剰暴露すると、上気道(鼻と喉)及び肺に刺激作用を帰することがある。
発がん性：	関連のあるデータは得られていない。
催奇形性：	動物試験で、催奇形性や他の胎児への影響はなかった。
生殖毒性：	動物試験では生殖を阻害しなかった。
生殖細胞変異原性：	インビトロでの遺伝毒性試験は陰性であった。
誤えん有害性：	物性上、誤えん有害性は低い。

水酸化カルシウム

急性毒性(経口)：	LD50, ラット, >2,000mg/kg OECD 試験ガイドライン 425
急性毒性(経皮)：	類似する物質から得られたデータに基づく LD50, ウサギ, >2,500mg/kg OECD 試験ガイドライン 402
急性毒性(吸入)：	LC50 は決められていない。
皮膚感作性：	関連のあるデータは得られていない。
呼吸器感作性：	関連のあるデータは得られていない。
発がん性：	類似物質について、動物試験では発がん性はなかった。
催奇形性：	関連のあるデータは得られていない。
生殖細胞変異原性：	インビトロでの遺伝毒性試験は陰性であった。

酸化ジルコニウム

急性毒性(経口)：	LD50, ラット, メス, >5,000mg/kg
急性毒性(経皮)：	経皮 LD50 は決定されていない。
急性毒性(吸入)：	LC50, ラット, オスおよびメス, 4h, 粉じん/ミスト, >4.3mg/l LC50 値は、到達可能な最高濃度よりも大きい。
皮膚腐食性/刺激性：	短時間接触では、本質的に皮膚刺激性がない。長期間接触すると、局所発赤を伴う皮膚刺激作用を起こすことがある。
眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性：	軽度を目を刺激することがある。軽度の角膜損傷を起こすことがある。
呼吸器感作性又は皮膚感作性：	モルモットでのテストでは皮膚アレルギー反応はなかった。
呼吸器感作性：	関連のあるデータは得られていない。
特定標的臓器毒性 (単回暴露)：	この物質又は混合物は特定標的臓器毒性物質(単回暴露)としては未分類。
特定標的臓器毒性 (反復暴露)：	入手可能なデータによると、繰り返し暴露で、顕著な有害影響は予期されない。
発がん性：	関連のあるデータは得られていない。
催奇形性：	関連のあるデータは得られていない。

生殖毒性：	関連のあるデータは得られていない。
生殖細胞変異原性：	インビトロでの遺伝毒性試験は陰性であった。
誤えん有害性：	入手可能な情報によると、誤えん有害性は確定されていない。
<u>二酸化ケイ素</u>	
急性毒性(経口)：	LD50, ラット, >3, 300mg/kg
急性毒性(経皮)：	LD50, ウサギ, >5, 000mg/kg
急性毒性(吸入)：	到達可能な最高濃度。LC50, ラット, 4h, 粉じん/ミスト, >2. 08mg/l この濃度では死に至らない。
皮膚腐食性/刺激性：	短時間接触では、本質的に皮膚刺激性がない。
眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性：	固形物ないし粉じんは物理的に目を刺激したり、角膜を損傷したりすることがある。
呼吸器感作性又は皮膚感作性：	モルモットでのテストでは皮膚アレルギー反応はなかった。
呼吸器感作性：	関連のあるデータは得られていない。
特定標的臓器毒性 (単回暴露)：	使用可能なデータの評価によれば、この物質は特定標的臓器毒性(単回暴露)を示さない。
特定標的臓器毒性 (反復暴露)：	関連のあるデータは得られていない。
発がん性：	関連のあるデータは得られていない。
催奇形性：	関連のあるデータは得られていない。
生殖毒性：	関連のあるデータは得られていない。
生殖細胞変異原性：	インビトロでの遺伝毒性試験は陰性であった。動物遺伝毒性試験は陰性だった。
誤えん有害性：	物性上、誤えん有害性は低い。

12. 環境影響情報

生体毒性

ホワイトミネラルオイル(石油)

魚類に対する急性毒性：	物質は事実上、水生生物に対して急性毒性を示さない (試験した種のうち最も感受性の高い種で LC50/EC50/EL50/LL50 >100mg/L)。LL50, <i>Oncorhynchus mykiss</i> (ニジマス), 止水式試験, 96h, >100mg/l, OECD 試験ガイドライン 203
無脊椎動物に対する急性毒性：	LL50, <i>Daphnia magna</i> (オオミジンコ), 止水式試験, 48h, >100mg/l, OECD 試験ガイドライン 202
藻類/水生植物に対する急性毒性：	最大無影響濃度, <i>Pseudokirchneriella subcapitata</i> (緑藻), 72h, 100mg/l, OECD 試験ガイドライン 201
魚類に対する慢性毒性：	最大無影響濃度, <i>Oncorhynchus mykiss</i> (ニジマス), 28d, 1, 000mg/l
無脊椎動物に対する慢性毒性：	最大無影響濃度, <i>Daphnia magna</i> (オオミジンコ), 21d, 1, 000mg/l

グラファイト

魚類に対する急性毒性：	物質は事実上、水生生物に対して急性毒性を示さない (試験した種のうち最も感受性の高い種で LC50/EC50/EL50/LL50 > 100mg/L)。LC50, <i>Danio rerio</i> (ゼブラフィッシュ), 96h, >100mg/l, OECD 試験ガイドライン 203
無脊椎動物に対する急性毒性：	EC50, <i>Daphnia magna</i> (オオミジンコ), 48h, >100mg/l, OECD 試験ガイドライン 202

藻類/水生植物に対する急性毒性 : EC50, *Pseudokirchneriella subcapitata* (緑藻), 72h, 100mg/l, OECD 試験ガイドライン 201
細菌に対する毒性 : EC50, 3h, >1012.5mg/l, OECD 試験ガイドライン 209

水酸化カルシウム

魚類に対する急性毒性 : 物質は、水生生物に対して急性毒性を示す(試験した種のうち最も感受性の高い種では LC50/EC50/EL50/LL50 10~100mg/L)。LC50, *Gasterosteus aculeatus* (イトヨ), 96h, 457mg/l

無脊椎動物に対する急性毒性 : EC50, *Daphnia magna* (オオミジンコ), 48h, 49.1mg/l, OECD 試験ガイドライン 202

藻類/水生植物に対する急性毒性 : EC50, *Pseudokirchneriella subcapitata* (緑藻), 72h, 184.57mg/l, OECD 試験ガイドライン 201

細菌に対する毒性 : EC50, 3h, 300.4mg/l, OECD 試験ガイドライン 209

無脊椎動物に対する慢性毒性 : 最大無影響濃度, 14d, 32mg/l

酸化ジルコニウム

魚類に対する急性毒性 : 物質は事実上、水生生物に対して急性毒性を示さない(試験した種のうち最も感受性の高い種で LC50/EC50/EL50/LL50 >100mg/L)。LC50, 魚類, 止水式試験, 96h, >100mg/l, OECD 試験ガイドライン 203

無脊椎動物に対する急性毒性 : EC50, *Daphnia* (ミジンコ属), 止水式試験, 48h, >100mg/l

藻類/水生植物に対する急性毒性 : EC50, *Scenedesmus subspicatus* (藻類), 止水式試験, 72h, 成長抑制, >100mg/l, OECD 試験ガイドライン 201

細菌に対する毒性 : データなし

二酸化ケイ素

魚類に対する急性毒性 : 物質は事実上、水生生物に対して急性毒性を示さない(試験した種のうち最も感受性の高い種で LC50/EC50/EL50/LL50 >100mg/L)。LC50, *Danio rerio* (ゼブラフィッシュ), 96h, 5,000~10,000mg/l

無脊椎動物に対する急性毒性 : EC50, *Daphnia magna* (オオミジンコ), 24h, >1,000mg/l

藻類/水生植物に対する急性毒性 : EC50, *Pseudokirchneriella subcapitata* (緑藻), 72h, バイオマス, 440mg/l

残留性・分解性

ホワイトミネラルオイル(石油)

生分解性 : 厳密な OECD 試験において、この物質は易分解とは分類されないが、しかしこれらの結果は、この物質が環境中で生分解しないと必ずしも意味するものではない。物質は本質的に生分解性である。OECD の本質的生分解性試験では生物分解は20%を超える。10-day Window: 不合格

生分解 : 0-24%

曝露時間 : 28d

方法 : OECD テストガイドライン 310B あるいは同等のもの

理論酸素要求量 : 3.50mg/mg

光分解性 試験タイプ : 半減期(間接光分解)

感作成物質 : OH ラジカル

大気中半減期：1.291d
方法：推定値

グラファイト

生分解性：生分解は適用不可

水酸化カルシウム

生分解性：関連のあるデータは得られていない。

酸化ジルコニウム

生分解性：関連のあるデータは得られていない。

二酸化ケイ素

生分解性：生分解は適用不可

生体蓄積性

ホワイトミネラルオイル(石油)

生体蓄積性：生物濃縮の可能性は高い。(BCF>3000, Log Pow:5-7)

n-オクタノール/水分配係数
(Log 値)(log Pow)：5.18 測定値

生物濃縮因子(BCF)：1,900 魚類

グラファイト

生体蓄積性：関連のあるデータは得られていない。

水酸化カルシウム

生体蓄積性：非該当

酸化ジルコニウム

生体蓄積性：n-オクタノール・水分配係数は適用不可。

二酸化ケイ素

生体蓄積性：n-オクタノール・水分配係数は適用不可。

土壌中の移動性

ホワイトミネラルオイル(石油)

分配係数(Koc)：510 測定値

グラファイト

土壌移動性：関連のあるデータは得られていない。

水酸化カルシウム

土壌移動性：関連のあるデータは得られていない。

酸化ジルコニウム

土壌移動性：関連のあるデータは得られていない。

二酸化ケイ素

土壌移動性：関連のあるデータは得られていない。

オゾン層のへ有害性

ホワイトミネラルオイル(石油)

この物質は、オゾン層を破壊する物質に関するモントリオール議定書に含まれていない。

グラファイト

この物質は、オゾン層を破壊する物質に関するモントリオール議定書に含まれていない。

水酸化カルシウム

この物質は、オゾン層を破壊する物質に関するモントリオール議定書に含まれていない。

酸化ジルコニウム

この物質は、オゾン層を破壊する物質に関するモントリオール議定書に含まれていない。

二酸化ケイ素

この物質は、オゾン層を破壊する物質に関するモントリオール議定書に含まれていない。

他の有害影響

この物質/混合物は0.1%以上の濃度、難分解性で高蓄積性及び毒性を有する物質(PBT)又は極めて難分解性、高い生体蓄積性を有する物質(vPvB)と懸念される物質を含有していない。

13. 廃棄上の注意

化学品、汚染容器及び包装の安全で、環境上望ましい廃棄、又はリサイクルに関する情報

廃棄法：「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」及び地方条例に定められた方法に従って、焼却等の処理を行う。委託する場合は、許可を受けた廃棄物処理事業者に委託する。

汚染容器及び包装：廃容器は内容物を十分除去した後に、法規に従い廃棄する。

14. 輸送上の注意

道路及び鉄道輸送に関する分類(ADR/RID)： Not regulated for transport

海上輸送に関する分類(IMO-IMDG)： Not regulated for transport

MARPOL73/78のAnnex I又はII及び IBC又はIGCコードに従い積荷を運搬する。 Consult IMO regulations before transporting ocean bulk

航空輸送に関する分類(IATA/ICAO)： Not regulated for transport

国内規制がある場合の規制情報： 消防法

輸送又は輸送手段に関する特別の安全対策： 情報なし

この情報は、この製品に関わる特定の法令や輸送上の条件を全てお知らせするものではありません。輸送分類は容器の大きさや国や地域の法令により異なることがあります。

この物質の輸送にあたっては、輸送会社の責任において、適用されるすべての法律、規制、規則に従ってください。

※

15. 適用法令

該当法令の名称及びその法令に基づく規制に関する情報

• 化審法：特定化学物質、監視化学物質、優先評価化学物質に該当しない。

• 化審法-既存化学物質及び新規化学物質リスト(ENCS)：

意図的使用成分はすべてインベントリ収載済みなし収載免除ないし供給元承認となっている。

• 労働安全衛生法

名称等を通知すべき危険物及び有害物(法第57条の2(施行令別表第9))

化学名又は一般名	濃度又は濃度範囲
鉱油	>=40.0 - <50.0%
水酸化カルシウム	>=10.0 - <20.0%
ジルコニウム化合物	>=10.0 - <20.0%

名称等を表示すべき危険物及び有害物(法第57条(施行令第18条))

化学名又は一般名	濃度又は濃度範囲
鉱油	>=40.0 - < 50.0%
水酸化カルシウム	>=10.0 - < 20.0%
ジルコニウム化合物	>=10.0 - < 20.0%

特定化学物質障害予防規則：非該当

有機溶剤中毒予防規則：非該当

健康障害防止指針公表物質：非該当

変異原性の認められた化学物質(既存化学物質)：非該当

変異原性の認められた化学物質(新規届出化学物質)：非該当

労働安全衛生法施行令-別表第1(危険物)：非該当

消防法：指定可燃物、合成樹脂類、その他のもの、(指定数量 3000 キログラム)、火気厳禁

毒物及び劇物取締法：非該当

化学物質排出把握管理促進法：非該当

高圧ガス保安法：非該当

廃棄物の処理及び清掃に関する法律：産業廃棄物

16. その他の情報

凡例

ACGIH	米国。ACGIH 限界閾値(TLV)
OEL-M	許容濃度
STEL	短時間暴露限界
TWA	8時間、時間加重平均
日本産業衛生学会(許容濃度)	日本産業衛生学会 許容濃度等の勧告-I 化学物質の許容濃度

その他の略語の全文

AIC - オーストラリアの工業化学品インベントリ； ANTT - ブラジル国家輸送機関； ASTM - 米国材料試験協会； bw - 体重； CMR - 発がん性、変異原性、生殖毒性があるとされる物質； DIN - ドイツ規格協会基準； DSL - 国内物質リスト(カナダ)； ECx - 任意の X%の反応を及ぼすと考えられる濃度； ELx - 任意の X%の反応を及ぼすと考えられる負荷割合； EmS - 緊急時のスケジュール； ENCS - 化審法の既存化学物質リスト； ErCx - 任意の X%の反応を及ぼすと考えられる成長率； ERG - 緊急対応の手続き； GHS - 世界調和システム； GLP - 試験実施規範； IARC - 国際がん研究機関； IATA - 国際航空輸送協会； IBC - 危険化学品のばら積輸送のための船舶の構造及び設備に関する国際規則； IC50 - 50%阻害濃度； ICAO - 国際民間航空機関； IECSC - 中国現有化学物質名録； IMDG - 国際海上危険物規程； IMO - 国際海事機関； ISHL - 労働安全衛生法(日本)； ISO - 国際標準化機構； KECI - 韓国既存化学物質名録； LC50 - 50%致死濃度； LD50 - 50%致死量(半数致死量)； MARPOL - 船舶による汚染の防止のための国際条約； n.o.s. - ほかに品名が明示されているものを除く； Nch - チリ規制； NO(A)EC - 無有害性影響濃度； NO(A)EL - 無有害性影響レベル； NOELR - 無有害性影響負荷割合； NOM - メキシコ公式規則； NPT - 米国国家毒性プログラム； NZIoC - ニュージーランド化学物質台帳； OECD - 経済協力開発機構； OPPTS - 化学物質安全性・公害防止局； PBT - 難分解性・生体蓄積性・有毒性(物質)； PICCS - フィリピン化学物質インベントリ； (Q)SAR - (定量的)構造活性相関； REACH - 化学物質の登録、評価、許可及び登録(REACH)に関する規則(EC)No1907/2006； SADT - 自己加速分解温度； SDS - 安全データシート； TECI - タイに既存の化学物質のインベントリ； TCSI - 台湾化学物質インベントリ； TDG - 危険物輸送； TSCA - 有害物質規制法(米国)； UN - 国連； UNRTDG - 国際連合危険物輸送勧告； vPvB - 非常に難分解及び非常に高蓄積性； WHMIS - 作業場危険有害性物質情報システム

文書番号：SDS-mk1ks-JP22
制定日：2022年8月31日
標題：MK1SKSSDS

13/13

本情報は、製品の安全な取扱い、使用、処理、保管、輸送、廃棄及び漏洩に関するガイダンスとしてのみ作成されており、いかなる保証又は品質規格をなすものではありません。本情報は、**SDS**の頭書に示されている特製された製品に関するものであり、当該本製品が他の製品と組み合わせて、又はプロセス中で使用される場合、本文中に言及がない限り、有効にはならない可能性があります。本製品の使用者各位においては、本情報及び奨励事項を適用する場合に、使用者各位の最終製品における本製品の適切な評価を含めて、使用者各位の意図する方法での特定の状況における本製品の取扱い、使用、処理、及び保管について、確認願います。

改訂履歴

制定	2016年12月1日	
第1回改訂	2022年08月31日	全面改訂